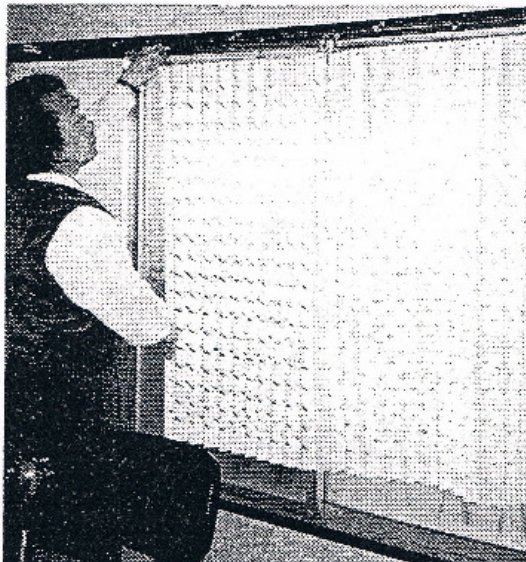


安くて簡単 デザイン自由

紙でカーテン作ろう



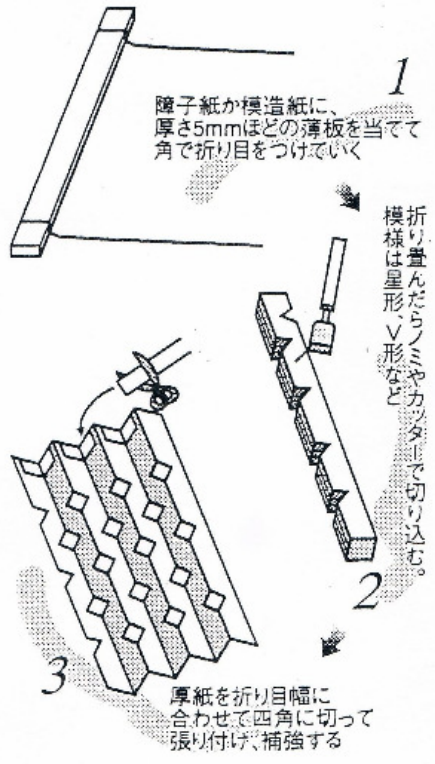
東京・世田谷の会社員田浦奈子さんは三年前、自宅の掃き出し窓(幅一・七メートル、高さ二・二メートル)に障子紙のカーテンを取りつけた。自宅を新築した際、予算があまり残っていないので自分で作ってみたのだ。

材料は最も幅の狭いロール状の障子紙(幅二十八センチ)。窓の高さよりも長くなるように、光を入れる時は折れ線に沿って下の方から畳みあげ、木の板を窓枠の上部にくぎで留め、つり下げて完成した。

田浦さんにカーテン作りを勧めた東京の建築家・植木秀樹さんは「窓の大きさに応じていろいろな手作りカーテンが楽しめる」と話す。

植木さんの設計事務所のカートンも、模造紙(縦二〇九センチ、横七九センチ)をそのまま利用した。縦方向に三つ幅で交互に折り畳んでひなを作り、片方の端に穴開け器で穴を開け、カーテンレールのフックに掛けたアコーディオン型カーテン。

障子紙や模造紙などを使って意外に簡単に、しかも見栄えのするカーテンを作ることが出来る。紙のいってもし丁寧に扱えば一、二年は十分にもつ。色やデザインは好みのまま。既製品を賣つたよりはるかに安い手作りカーテンに挑戦してみたいかならう。



すてき収納 ⑯ 竹岡 美智子

四人家族の家庭では、一般に七・五畳の部屋の床から天井までぎっしりと詰め込める量のモノを所有していると言われる。ところが毎日の生活で日常的に使われているのはその中の一割程度に過ぎず、あとは不用品が死蔵品になっている。

本当は使いたいのに使えない状態にしてしまっているのが、結果的に死蔵品になっている物が何と多いことか。

物はいつも使っている物、季節ごとに使つ物、いつか使つとがあるかもしれないと保管している物に分けられる。貴重なスペースが物で埋まっているので、その時必要なものを使いた

全部捨てたつもりで必要な物拾ってみる

収納を考える時に一番大事なことは「一定位置に置く」ことだ。出して使ったら元に戻す。物の陰に隠れてもいから、いつも同じ位置に置く。

次に大切なのは「家族全員が知っていること」。主婦一人が知っているだけでは収納とは言えない。

くぐってしまつた。かといって、物はなかなか捨てられない。その家のものものを一度全部捨てたと思つて、その中から必要な物を拾ってみてはどうか。拾った物を、使う頻度が多い順に収納すればよい。

折り返した状態で、カッターで適当に切り目を入れ、光が漏れる穴(模様)もつけた。

ひだの幅の厚紙か薄板をあて、これに沿って折る。長い直線でもきれいに折ることが出来る。一枚の紙で窓を覆えない時は、同じ要領で補強してから穴を開ける。ドバイスしている。

作成した紙をのり付けして縦目、横目、フックに掛けられる部分は傷みやすいのは変わる。手軽に出来るので、いろいろ試してみたい。ドバイスしている。

植木さんは「和紙の色を切り目の模様によつても雰囲気は変わる。手軽に出来るので、いろいろ試してみたい。ドバイスしている。」

子どもの詩

バスの運転手さん 灰原 しほ

バスの運転手さんは いろいろもくちだつたり

「回数券はつばいしてあります」

など あんないしたり

私は よくしゃべる

運転手さんが好き

その人は

気づかいノール賞だ

(水戸市・茨城大学教育学部付属 小四年)

この詩が「気づかいノール賞」の運転手さんの目にふれるといいなあ。(川崎 洋)

(植木秀樹建築家)